



令和元年度「防災スペシャリスト養成研修（有明の丘）」（第2期） 募集要項

内閣府は、国・地方公共団体の職員を対象とした令和元年度「防災スペシャリスト養成研修（有明の丘）」（第2期）を、下記のとおり実施します。

記

1 コース名及び開催日（各コースとも2日間）

コース名	開催日
① 防災基礎	令和2年 1月16日（木）～17日（金） ※ 防災部門のみならず、災害対応に関わることになる職員など、災害対応の基礎を学びたい方を対象とします。
② 災害への備え	令和2年 2月13日（木）～14日（金） ※ 防災計画等の立案や住民啓発、防災教育、企業防災、災害ボランティアを担当する職員など、平常時の防災対策を実施するための知識や手法を学びたい方を対象とします。
③ 警報避難	令和2年 2月17日（月）～18日（火） ※ 住民の避難誘導を担当する職員など、情報の収集・分析、避難勧告等の発令、避難誘導対策を学びたい方を対象とします。
④ 応急活動・資源管理	令和2年 2月19日（水）～20日（木） ※ 応急活動や応援・受援を担当する職員など、物資・活動拠点や外部からの応援といった災害時の資源（人・物・環境）の管理と調整について学びたい方を対象とします。
⑤ 被災者支援	令和2年 2月 6日（木）～ 7日（金） ※ 医療・福祉・保健部門で避難所運営や被災者対応を担当する職員など、被災者支援を実施するために必要となる知識や手法を学びたい方を対象とします。
⑥ 復旧・復興	令和2年 2月26日（水）～27日（木） ※ インフラ整備や都市計画部門で復興を担当する職員や、生活・社会・産業など総合的な復興計画策定等を担当する政策企画部門の職員など、被災自治体が取り組む復旧・復興政策を学びたい方を対象とします。
⑦ 指揮統制	令和2年 1月23日（木）～24日（金） ※ 災害対応における組織の運営や参謀としての役割につく防災担当の幹部の方などを対象とします。
⑧ 対策立案	令和2年 1月21日（火）～22日（水） ※ 災害対策本部で発災時に被災状況等を情報収集・分析し、適切な対策を迅速に立案する防災担当の方を対象とします。
⑨ 人材育成	令和2年 2月 4日（火）～ 5日（水） ※ 防災担当の幹部職員など、職員や組織の災害対応能力向上を図るための人材育成プログラムの策定、訓練・研修の効果的な企画・運営の知識や手法を学びたい方を対象とします。
⑩ 総合監理	令和2年 1月30日（木）～31日（金） ※ 防災に関する政策立案や、平常時から災害対応に必要な組織の構築を担う防災担当幹部職員など、総合的な防災政策を実施するための知識や手法を学びたい方を対象とします。

2 定員

各コースとも原則50名

3 開催場所

東京都江東区有明3丁目8-35

東京臨海広域防災公園 有明の丘基幹的広域防災拠点施設

<http://www.ktr.mlit.go.jp/showa/tokyorinkai/information/access.htm>

4 研修時間（各コース共通）

- ・開始時刻は、1日目は9時15分、2日目は9時30分です。
- ・1日目は9時15分からオリエンテーションを実施しますので、それまでに会場へお越しください。
- ・終了時刻は、両日とも17時30分ですが、一日目の終了後に写真撮影を行います。また、講義の進行により多少前後することがあります。
- ・1日に研修を5コマ実施します。なお、1コマの時間は75分です。

5 募集要領

(1) 応募方法等 （※応募方法は抽選となっております。）

- ① 防災スペシャリスト養成研修ホームページ(<https://bousai-ariake.jp>) 内の「受講申込」にある、「防災スペシャリスト養成研修（有明の丘研修 第2期）受講申込フォーム」(https://bousai-ariake.jp/introduction/ariake/introduction_form) に、必要事項をご入力いただき、送信してください。

※ 複数のコースを申し込むことができます。その場合、希望するコースをすべて選択してください。

- ② **定員を超過した場合は、抽選により受講者を決定します。（同一コースには、同一所属（課）から2名の受講を上限とし、プログラムによる抽出）**
- ③ 受講可否については、期間終了10日以内を目安に、株式会社サイエンスクラフトよりすべての応募者に対し、電子メールにて通知します。
- ④ **受講確定後の受講者変更はできません。**
- ⑤ キャンセルによる再抽選は行いません。
- ⑥ 各コースともに二日間を通しての受講をお願いします。（一日のみの受講は認めておりません）

(2) 応募期間

令和元年11月5日（火）13時00分から、12日（火）13時00分まで

(3) 必要経費

受講料は無料です。交通費は各自でご負担ください。

(4) 食事

昼食などは各自で準備・対応をお願いします。

(5) 宿泊

研修会場である「有明の丘基幹的広域防災拠点施設」には宿泊施設はありませんので、

必要な方は各自で手配をお願いします。

6 その他

- ・当該研修の詳細については、「防災スペシャリスト養成研修ホームページ」にて適宜情報提供いたします。
- ※防災スペシャリスト養成研修ホームページ(<https://bousai-ariake.jp>)
- ・本業務は、株式会社サイエンスクラフトに業務を委託しております。
- ・その他ご不明な点は、下記「研修に関する問合せ先」までご連絡ください。

【主催】

内閣府政策統括官（防災担当）付 参事官（地方・訓練担当）付

参事官補佐 宮坂広志・石川皓章 電話：03-3503-9394（直通）

【研修に関する問合せ先】

〒102-0085 東京都千代田区六番町 13-7 中島ビル 2 階

(株) サイエンスクラフト 担当：武田・清水・石原・塚本

電話：03-6261-5903 FAX：03-6261-5904 E-mail:kenshu@scraft.co.jp

自然災害に備えて

防災スペシャリスト養成研修（有明の丘）

令和元年度 第2期（令和2年1月16日～2月27日）

内閣府（防災）

内閣府（防災）では、「危機事態に迅速・的確に対応できる人」、「国・地方のネットワークを形成できる人」を「防災スペシャリスト」に求める人材像と定め、国や地方公共団体等の職員を対象とした「防災スペシャリスト養成研修」に取り組んでいます。

本研修では、災害リスクや防災に関する法制度などの基礎分野から、災害対策本部運営などの幹部職員に必要なマネジメント分野に至るまで、防災スペシャリストに必要なとされる知識・技能・態度を、座学や演習を通じて体系的に学ぶことができます。

令和元年度第2期 開催日程（1/16～2/27）

日	月	火	水	木	金	土
1/12	13	14	15	16	17	18
				防災基礎		
19	20	21	22	23	24	25
		対策立案		指揮統制		
26	27	28	29	30	31	2/1
				総合監理		
2	3	4	5	6	7	8
		人材育成		被災者支援		
9	10	11	12	13	14	15
				災害への備え		
16	17	18	19	20	21	22
	警報避難		応急活動・資源管理			
23	24	25	26	27	28	29
			復旧・復興			

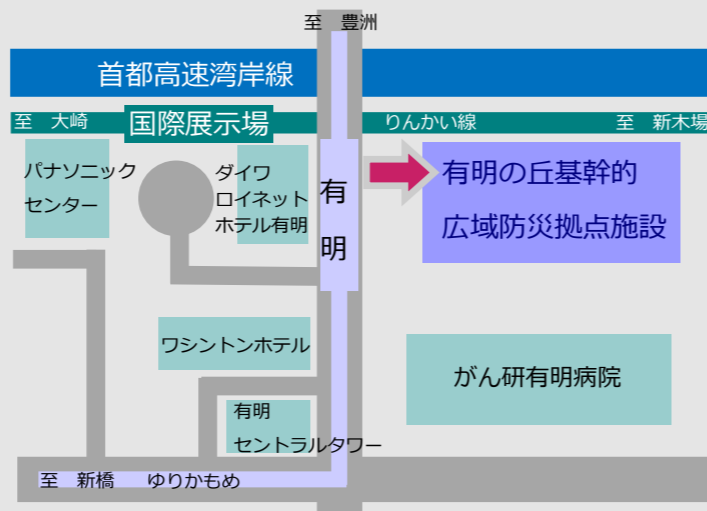
会場

有明の丘基幹的広域防災拠点施設

東京都江東区有明3丁目

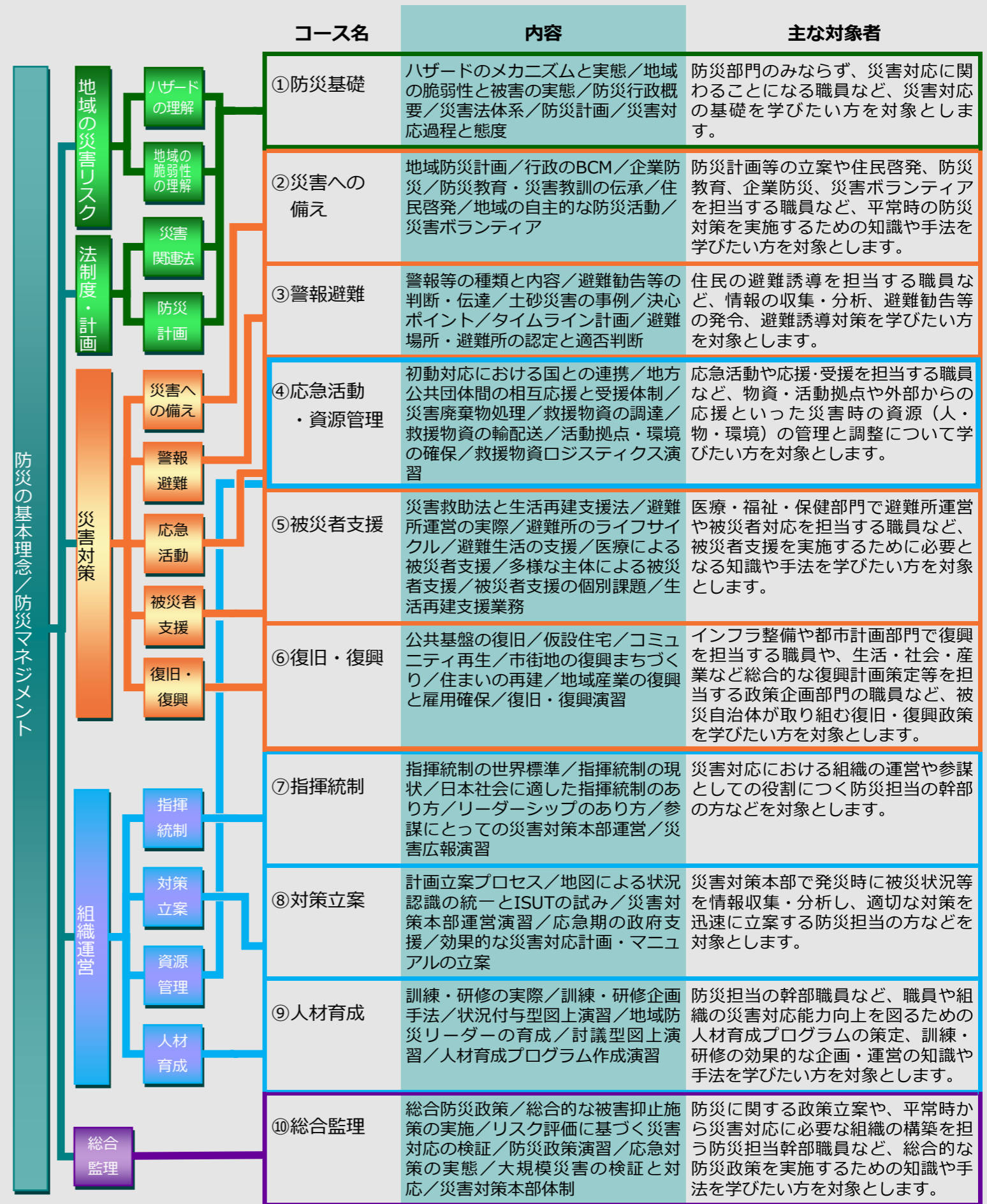
●アクセス

りんかい線 国際展示場駅より徒歩4分
ゆりかもめ 有明駅より徒歩2分



有明の丘基幹的広域防災拠点施設は、首都直下地震等の大規模な災害発生時に、現地における被災情報のとりまとめや災害応急対策の調整を行う「災害現地対策本部」等が置かれる首都圏広域防災のヘッドクォーター及び広域支援部隊等のベースキャンプ、災害医療の支援基地として、東扇島地区（川崎市）の物流コントロールセンターと一体的に機能する防災拠点施設です。

防災スペシャリスト養成研修（有明の丘）の各コースの概要



内閣府（防災）

企画・運営

Science Craft 株式会社サイエンスクラフト

阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター

ホームページ：https://bousai-ariake.jp/

令和元年10月9日版

研修カリキュラム

【令和元年度 第2期】

「防災基礎」

◇コースコーディネーター◇ 牛山素行（静岡大学）

	1 09:30-10:45	2 11:00-12:15	3 13:15-14:30	4 14:45-16:00	5 16:15-17:30
1月16日	防災基礎総論 防災・危機管理の基本的な考え方を学びます。	ハザードのメカニズムと実態 ハザードのメカニズムと災害による被害や防災対策を学びます。			地域の脆弱性と被害の実態 人的被害の実態や地域を知ることの重要性を理解し、防災情報に基づく避難のあり方について学びます。
1月17日	防災行政概要／災害法体系／防災計画 防災活動全体の流れと個々の活動の基礎的な知識とともに、災害対策基本法・災害救助法などの災害関連法の体系や防災計画の概要を学びます。		災害対応過程と態度を学ぶ(演習) 災害発生前後の地方公共団体の対応について具体的な事例に沿って学びます。		全体討論・閉講 災害対応の基本について学んだことを、受講者が担当する業務ごとのように反映させるのかを考えます。

「災害への備え」

◇コースコーディネーター◇ 丸谷浩明（東北大学）

	1 09:30-10:45	2 11:00-12:15	3 13:15-14:30	4 14:45-16:00	5 16:15-17:30
2月13日	「災害への備え」総論 自助・共助・公助による災害への備えの基本的な考え方や対策を学びます。	「災害への備え」としての地域防災計画 地域防災計画、地区防災計画等を、どのように災害の備えに向けて活用するのかを学びます。	地域の自主的な防災活動 住民の自主防災組織の意義・役割と行政による推進策について学びます。	企業防災 企業が災害時に果たすべき役割を認識し、企業と行政が連携した防災活動について学びます。	「災害への備え」ワークショップ(演習) 自助・共助・公助による災害への備えの推進方策についてワークショップ形式で学びます。
2月14日	行政のBCM 行政におけるBCMの意味と策定のポイントについて学びます。	住民啓発 住民向けの防災の啓発の基本的な事項および具体例について学びます。	防災教育・災害教訓の伝承 地域に根差した防災活動を進めるための防災教育および災害教訓の伝承について学びます。	災害ボランティア 災害ボランティアの意義・役割と行政との連携について学びます。	全体討論・閉講 災害への備えについて学んだことを、受講者が自らの組織でどのように反映させるのかを考えます。

「警報避難」

◇コースコーディネーター◇ 井ノ口宗成（富山大学）

	1 09:30-10:45	2 11:00-12:15	3 13:15-14:30	4 14:45-16:00	5 16:15-17:30
2月17日	警報避難総論 警報避難対策の基本的な考え方や事前対策を学びます。	警報等の種類と内容 警報等の種類と内容、伝達について学びます。	避難勧告等の判断・伝達 避難勧告等の判断と伝達方法について学びます。	風水害における警報と避難 風水害における警報と避難の実務について学びます。	風水害からの警報避難における決断(演習) 風水害における警報と避難の決断ポイントを演習形式で学びます。
2月18日	風水害におけるタイムライン計画(演習) 風水害における警報と避難のタイムライン計画の作成方法を演習形式で学びます。	土砂災害における警報と避難 土砂災害における警報と避難の実務について学びます。	土砂災害の事例に学ぶ(演習) 土砂災害の事例から土砂災害における警報と避難について、その実態を演習形式で学びます。	避難場所・避難所の認定と適否判断(演習) 避難場所・避難所の種類とその設置要件、及び災害ごとに避難場所・避難所の適否判断をするうえでの行動を演習形式で学びます。	全体討論・閉講 警報避難について学んだことを、受講者が担当する業務ごとのように反映させるのかを考えます。

「応急活動・資源管理」

◇コースコーディネーター◇ 宇田川真之（東京大学）

	1 09:30-10:45	2 11:00-12:15	3 13:15-14:30	4 14:45-16:00	5 16:15-17:30
2月19日	応急活動・資源管理総論 応急活動の流れと資源管理に関する基本的な考え方について学びます。	初動対応における国との連携 国における初動対応の内容とその連携のあり方について学びます。	地方公共団体の相互応援と受援体制 災害時の行政機関の間で行われる応援受援の仕組みと受援体制について学びます。	災害廃棄物処理 災害廃棄物の撤去・処理の進め方と留意点を事例に基づき学びます。	資源管理演習 災害対策本部における資源(人的、物的、空間、サービス)の確保、管理における留意点などを演習形式で学びます。
2月20日	救援物資の調達 救援物資の調達に関する実務と課題について学びます。	救援物資の輸配送 救援物資の輸配送に関する実務と課題について学びます。	活動拠点・環境の確保 応急活動を行うために必要となる活動拠点や通信サービス等の確保について学びます。	救援物資ロジスティクス演習 救援物資の調達から輸送・保管・配布における留意点などを演習形式で学びます。	全体討論・閉講 災害時の物資物流と広域的な応援体制について学んだことを、受講者が担当する業務ごとのように反映させるのかを考えます。

「被災者支援」

◇コースコーディネーター◇ 田村圭子（新潟大学）

	1 09:30-10:45	2 11:00-12:15	3 13:15-14:30	4 14:45-16:00	5 16:15-17:30
2月6日	被災者支援総論 被災者支援の実態と被災者支援の全体像を学びます。	災害救助法と生活再建支援法 被災者支援における災害救助法と生活再建支援法の位置づけや各制度、手続き、適用事例を学びます。	避難所のライフサイクル 運営体制の確立、運営、被災者のニーズへの対応、解消までの避難所のライフサイクルを学びます。	避難所運営の実際 事例を基に避難所運営の実際を学びます。	避難所のライフサイクル(演習) 避難所のライフサイクルを演習形式で学びます。
2月7日	避難生活の支援 災害時要配慮者を始めとする避難生活への支援対策を学びます。	医療による被災者支援 医療チームの活動と医療支援のサイクルなど医療による被災者支援を学びます。	生活再建支援業務 多様な主体による被災者支援/被災者支援の個別課題 専門職能における被災者支援と被災者支援の個別課題を学びます。	生活再建支援業務 家屋の被害認定から罹災証明の発行と罹災証明を基にした一連の生活再建支援業務を学びます。	被災者支援のタイムライン策定(演習)/全体討論・閉講 避難所運営と被災者支援について学んだことをもとに被災者支援のタイムラインを策定します。

※ 受講したい内容に応じて各コースを自由に選択し、組み合わせて履修できます。

※ 研修カリキュラムは、変更される場合がありますので、あらかじめご了承ください。

「復旧・復興」

◇コースコーディネーター◇ 中林一樹（明治大学）

	1 09:30-10:45	2 11:00-12:15	3 13:15-14:30	4 14:45-16:00	5 16:15-17:30
2月26日	復旧・復興総論 災害からの復旧・復興の概念、行政・被災者等の取組みから生活、産業、社会、市街地の復興プロセスとその全体像について学びます。	公共基盤の復旧(基盤復興Ⅰ) 被災した公共基盤の復旧・再建の理念とその支援制度、対応業務の進め方について、事例を踏まえて学びます。	仮設住宅(生活復興Ⅰ) 仮設住宅供給の意義と課題、借り上げ応急仮設住宅(見なし仮設)の供給及び応急仮設住宅の建設について、県と市町村の役割分担、建設用地の選定や確保、入居と管理運営、撤去等について、事例に基づき学びます。		コミュニティ再生(社会復興) 地域社会の再生(つながり・コミュニティの継続と活性化)について事例を通して学びます。
2月27日	市街地の復興まちづくり(基盤復興Ⅱ) 土地区画整理事業など市街地の基盤を再整備する復興まちづくりの意義と課題を事例に基づいて学びます。	住まいの再建(生活復興Ⅱ) 被災者個人の生活再生とその基盤となる被災者の住まいの再建について体系的に学びます。	地域産業の復興と雇用確保(産業復興) 地域社会の活力と被災者の雇用確保のための産業復興について事例に基づいて学びます。	復旧・復興演習(復旧・復興対策の事前準備) 自らの自治体の地域防災計画の復旧・復興編を検証し、復興対策の体系や体制を演習形式で学びます。	全体討論・閉講 事前復興の取り組みの事例を通じて、自治体で事前復興に取り組む可能性と課題を考えます。

「指揮統制」

◇コースコーディネーター◇ 林春男（防災科学技術研究所）

	1 09:30-10:45	2 11:00-12:15	3 13:15-14:30	4 14:45-16:00	5 16:15-17:30
1月23日	指揮統制総論 災害対策本部組織を統制していくための、世界標準に即した理論と基礎構造を学びます。	指揮統制の世界標準 世界標準における危機対応組織の仕組みを学び、リーダーに求められる8つの役割を学びます。	指揮統制の現状 大規模災害を経験したトップが指揮統制の本質を語ります。	日本社会に適した指揮統制のあり方(演習) 危機対応の世界標準に則して災害対策本部の統制のあり方を学びます。	
1月24日	リーダーシップのあり方 リーダーシップの考え方と指揮統制を行うための要求事項を学びます。	参謀としての災害対策本部運営 どのようにトップを補佐しながら災害対策本部を運営していくのかについて学びます。	災害広報演習 地方公共団体の災害広報の事例を踏まえ、地方公共団体の長や幹部は、メディアを通して被災者にどう向き合い、どう語るのかを学びます。		全体討論・閉講 指揮統制について学んだことを、受講生のそれぞれの組織でどのように反映させるのかを考えます。

「対策立案」

◇コースコーディネーター◇ 林春男（防災科学技術研究所）

	1 09:30-10:45	2 11:00-12:15	3 13:15-14:30	4 14:45-16:00	5 16:15-17:30
1月21日	対策立案総論 災害対応における対策立案の考え方と情報統括、活動サイクル、体制について学びます。	計画立案プロセス 「当面の実行計画(インシデントアクション・プラン)」の果たすべき役割と基本的な構造、立案のプロセスについて学びます。	地図による状況認識の統一とISUTの試み GISによる統合された情報提供の必要性とISUTの有効性について学びます。	災害対策本部運営演習 災害発生後の限られた情報の中で状況を推測し、対応方針を検討し、計画を立案し、活動を調整しながら、災害対策本部会議において対策を決定する手法を学びます。	
1月22日	応急期の政府支援 発災直後に各省庁から提供される具体的な支援の内容について学びます。(政府の全体的な初動対応は資源管理コース「初動対応における国との連携」で学べます。)		効果的な災害対応計画・マニュアルの立案演習 災害対応計画の果たすべき役割と基本的な構造、災害対応マニュアルの作成について、災害対応の事例を基に演習形式で学びます。		全体討論・閉講 災害対応マネジメントにおける計画立案について学んだことを、災害対策本部運営にどのように反映させるのかを考えます。

「人材育成」

◇コースコーディネーター◇ 黒田洋司（消防防災科学センター）

	1 09:30-10:30	2 10:45-12:15	3 13:15-14:30	4 14:45-16:00	5 16:15-17:30
2月4日	人材育成総論 人材育成の必要性や戦略、法律、計画を学びます。	訓練・研修の実際 国や地方公共団体が実際に実施している訓練の事例を学びます。	訓練・研修企画手法 防災訓練・研修を企画する際のポイントを学びます。	訓練企画運営実践Ⅰ(状況付与型図上演習) 訓練手法のうち状況付与型図上演習の一つである、災害対策本部運営訓練を経験するとともに、さまざまなシナリオを用いた状況付与型図上演習の考え方を学びます。	
2月5日	地域防災リーダーの育成 地域における防災リーダーの育成の意義と研修の企画、実施手法を学びます。	訓練企画運営実践Ⅱ(討議型図上演習) 訓練手法のうち討議型図上演習の一つである災害対応者のインタビューによる追体験演習を経験するとともに、さまざまな素材を用いたケースメソッドの考え方を学びます。		人材育成プログラム作成演習・閉講 様々な訓練・研修を組み合わせた人材育成のプログラムの作成手法や留意点について学びます。	

「総合監理」

◇コースコーディネーター◇ 岩田孝仁（静岡大学）

	1 09:30-10:45	2 11:00-12:15	3 13:15-14:30	4 14:45-16:00	5 16:15-17:30
1月30日	総合防災政策 総合的に防災政策を推進していくことの基本的な考え方を予防対策から応急対策への流れに沿って学びます。	総合的な被害抑止施策の実施 水害や土砂災害、地震などの被害を抑止するため総合的な対策について学びます。		リスク評価に基づく災害対応の検証 防災アクションプランの意義と策定方法、事業評価の手法について学びます。	防災政策演習 具体的な被害想定を基に、どのような防災政策を立案して推進していくべきかを演習形式で学びます。
1月31日	応急対策の実態 災害対策本部における重要業務と応急活動の実態について学びます。	大規模災害の検証と対応 大規模災害がどのように検証され、どのような対応方針が示されているのかを学び、今後の災害への反映を考えます。	災害対策本部体制(演習) 災害対策本部体制を構築するために必要な体制、空間レイアウトなど事前に準備すべきことを学び、災害対策本部運営の流れと心構えを演習形式で学びます。		全体討論・閉講 総合防災政策立案について学んだことを、受講者がそれぞれの組織でどのように反映させるのかを考えます。

令和元年度 有明の丘研修 第2期 応募者数

	応募者数 (人)	倍率 ※1	受講 確定数 ※2
① 防災基礎 (1/16-17)	128	2.6	66
② 災害への備え (2/13-14)	111	2.2	66
③ 警報避難 (2/17-18)	95	1.9	66
④ 応急活動・資源管理 (2/19-20)	95	1.9	66
⑤ 被災者支援 (2/6-7)	103	2.1	66
⑥ 復旧・復興 (2/26-27)	58	1.2	58
⑦ 指揮統制 (1/23-24)	104	2.1	66
⑧ 対策立案 (1/21-22)	137	2.7	66
⑨ 人材育成 (2/4-5)	65	1.3	65
⑩ 総合監理 (1/30-31)	54	1.1	54
合計	950	1.9	639

※1 応募者数/50人

※2 定員は各コース50人だが、キャンセルを見越して66人まで受付けている